

「GCP の教科書」フォローサイト



株式会社リックテレコム／書籍出版部

(最終情報更新日：2019年5月7日)

『GCP の教科書』をご購入頂き、誠にありがとうございます。

Google Cloud Platform(GCP)の内容は年々アップデートされます。したがって、ここでは本書の内容の補足やアップデート情報を提供してまいります。

[INDEX]

1. 第7章の GitHub

第7章 (P275～) で使用する、GitHub の URL

2. GCP の教科書を読んだ後にすること

3. Google Cloud Next '18 について

4. 2018 年以降の GCP 主要な動向一覧

5. Google Cloud Next '19 について

1. 第7章の GitHub

ここで使用する GitHub の URL は下記の通りです。

<https://github.com/cloud-ace/book-GCPnoKyoukasyo>

2. GCP の教科書を読んだ後にすること

GCP の教科書は、基礎とサービスの網羅性を意識した位置づけとなっています。さらに書籍作成中や発刊後も Google Cloud は非常に進化が速いです。皆さんが迷われないよう、2018 年 7 月に開催された Google Cloud Next '18 から、Next '19 までの歴史を簡単に整理してみます。

本書を読み終えたら、自分が興味を持った分野は以下にトライしてみましよう！

1. GCP 公式ドキュメントを読む
2. クリックスタートで実際に触ってみる
3. 国内外の記事を読んでみる
4. 自分ができそうな部分からコツコツ試してみる
5. 不明点は 1 人で悩まず相談してみる

[<Index に戻る>](#)

3.Google Cloud Next '18 について

2018年7月24日から26日にサンフランシスコで実施されました。上述のとおり 105 の発表 (<https://cloudplatform-jp.googleblog.com/2018/08/100-plus-announcements-from-google-cloud-next-18.html>)があり、そのうち GCP に関する内容が 50 以上、G-Suite に関する内容が 10 以上と非常に多く、世界を驚かせたと思われます。

Google Cloud Next'18 で特筆すべき内容は「サーバレス」と「オンプレミスサーバとクラウドの融合」です。

Google の唱える「サーバレス」とは、運用が必要ない状態を示しています。一般的なサーバレスアーキテクチャとは、サーバ (VM インスタンス) を用意しなくても IT サービス / プラットフォーム / アプリケーションの提供から、データの整形 / 処理 / 分析等が行える構成を示すものですが、Google はサーバレスアーキテクチャの領域でも運用 (オペレーション) は「不要」になると考えています。つまり開発者が運用を気にすることなく、プログラミング、テスト、デプロイに専念できるようにしようとしています。DevOps の「Ops」を意識しない取り組みをしています。

また「オンプレミスサーバとクラウドの融合」は Kubernetes の強みを活かし、オンプレミスサーバで稼働するコンテナと、クラウドで稼働するコンテナをオーケストレーションできる世界を実現させようとしています。従来は、オンプレミスサーバからクラウド (VM インスタンス) へ移行する取り組みをクラウド事業者は主に取り組んでいましたが、Kubernetes を使うことで移行ではなく、エコシステム の概念を Google は提唱しました。

Google Cloud Next'18 のすべてを説明することは記載しませんが、以下の Web サイトが非常に参考になりますので、一読されることをお勧めします。

- Google Cloud Next '18 で行った 105 の発表

<https://cloudplatform-jp.googleblog.com/2018/08/100-plus-announcements-from-google-cloud-next-18.html>

- Google Cloud が推進する、さまざまな「サーバレス」

<http://www.atmarkit.co.jp/ait/articles/1808/16/news004.html>

- BeyondCorp など、Google Cloud のセキュリティにおける進化

<http://www.atmarkit.co.jp/ait/articles/1808/16/news015.html>

- Google Cloud Next'18 で発表された Cloud Services Platform、Knative とは

<http://www.atmarkit.co.jp/ait/articles/1808/20/news024.html>

- Cloud ML Engine に「scikit-learn」と「XGBoost」が追加、AutoML は自然言語と翻訳に対応

<http://www.atmarkit.co.jp/ait/articles/1808/21/news021.html>

<Index に戻る>

4.2018年以降の GCP 主要な動向一覧

読者が GCP の教科書を手にしたときは「本書に記載している以外の新しいプロダクトの登場や、既存プロダクトの改良」が公開されていると思われます。本書を書き終えた段階での GCP 主要な動向を一覧として以下に箇条書きで記載します。その他、改良箇所は多々ありますが、それをすべて追わずに必要なになったときに GCP 公式ドキュメントを読み、実際に触ってみれば「なるほど」と理解できると思います。

執筆中から 2018 年 9 月末 までの主なリリース情報

- Compute Engine (GCE) に単一テナントノードが追加
- Cloud Functions の GA 昇格 (Node.js ランタイム 8、Python 3.7 を追加)
- Cloud SQL の PostgreSQL 9.6 の GA 昇格
- Cloud Memorystore の β 版提供 (Redis フルマネージドサービス)
- Cloud Filestore の β 版提供 (フルマネージド NFS ファイルサービス)
- Cloud Armor β 版提供 (AI も活用した WAF サービス)
- Cloud Build β 版提供 (従来は Cloud Container Builder の名称で、機能拡張)
- BigQuery の UI β 版提供 (デフォルトで新しい BigQuery の UI を提供)
- Cloud Composer β 版提供 (Apache Airflow のフルマネージドサービス)
- 共有 VPC ネットワーク (XPN) の β 版提供 (他組織のネットワークとピアリングが可能)

5. Google Cloud Next '19 について

2019 年 4 月 9 日から 11 日にサンフランシスコで実施されました。上述のとおり 122 もの発表 (<https://cloud-ja.googleblog.com/2019/04/100-plus-announcements-from-google-cloud-next19.html>) があり、そのうち GCP に関する内容が 80 以上で Next '18 を超えています。セッション数は 600 と非常に多く、Youtube にも公開されています。正直、私も英語能力は高くないので動画内のスライドや実演部分だけをチョイスして観ていました。

Google Cloud Next'19 で特筆すべき内容は「エンタープライズ向けサービスの充実化」と「マルチクラウドの推進」と「OSS とのエコシステム」です。The Internet には沢山の記事があるので是非読んでみてください。

<Index に戻る>

以上